

NPO／特定非営利活動法人

放送批評懇談会

第 21 回通常総会議事録

第一号議案 議長の選任

第二号議案 放送批評懇談会 2024 年度事業報告

第三号議案 放送批評懇談会 2024 年度決算報告

第四号議案 放送批評懇談会 2025 年度事業計画

第五号議案 放送批評懇談会 2025 年度収支予算

放送批評懇談会

2025年3月23日



NPO放送批評懇談会

第21回通常総会 2025

特定非営利活動法人放送批評懇談会

<第21回通常総会>

■開催日 2025年3月23日

■会場 オンライン開催

■会 勢 <正会員>
207名 (入会22名、退会10名)
<維持会員>
141社 (入会3社)

■出席者 39名
家田利一 石田研一 市村 元 出田幸彦
入江たのし 大野 茂 奥 律哉 音 好宏
風間恵美子 加藤久仁 兼井孝之
茅原良平 川喜田尚 北林靖彦 国枝智樹
五井千鶴子 小林 毅 境真理子 桜井聖子
鈴木健司 滝野俊一 長井展光 仲宇佐ゆり
中島好登 永須智之 西畠泰三 丹羽美之
長谷川達哉 服部洋之 桧山珠美 平岩 潤
藤田貴久 藤田真文 古川柳子 堀木卓也
山家誠一 山田健太 渡邊 悟 渡邊久哲

■委任状提出者 79名

■出席予定者と委任状提出者で計118名



第一号議案 議長の選任

定款第27条「総会の議長は、その総会に出席した正会員の中から選出する」の規定に則り、出席の正会員の中から、「長谷川達哉氏」を合議により選出。

第二号議案

放送批評懇談会

2024 年度事業報告



2024年度総務事業報告

1. 会員管理、議会運営、事務局業務を行い、委員会を運営して事業部門の活動を支援しました。
2. 顧問弁護士との契約、社労士事務所の変更
木嶋望弁護士（ヴァスコ・ダ・ガマ法律会計事務所）と顧問契約を結びました。
また、昨今の働き方改革にともなう労働基準法の改定等に対応し、社労面を強化して事務局運営の健全化を図るため、木嶋弁護士には、一般的な法務業務に加えて社労関連業務の監督を依頼することで契約を締結しました。これに伴い、旧来の社労士事務所との契約は終了しました。
3. 事務局の環境整備、就業規則および関連規程の強化
2021年度に発足させた、NPO法人としての放送批評懇談会の在り方を検討し、組織としての強靱化を図るワーキングチーム（川喜田尚専務理事、小林毅理事、中島好登事務局長）活動の一環として、就業規則の大幅な改正を行い、関連の諸規程の改正、新設作業に着手しました（小林毅理事原案作成、木嶋望弁護士監修）。
4. 志賀信夫賞、フロンティア賞
志賀信夫賞は正会員による候補者推薦を受けつけて選考を行い、日曜朝の報道情報番組「サンデーモーニング」を長きにわたり牽引した関口宏さんを選出しました。
理事、委員、委員会からの推薦を受けて選考するギャラクシー賞フロンティア賞は、Nドキュポケット（日本テレビ放送網）を選出しました。
選考委員会：音 好宏（委員長） 川喜田尚 藤田真文 出田幸彦 桜井聖子
5. 第61回ギャラクシー賞
2024年5月31日（金）セルリアンタワー東急ホテル・ボールル



ームにて「第61回ギャラクシー賞贈賞式」を開催しました。

6. 「ザ・ベストテレビ2024」「ザ・ベストラジオ2024」

国内の放送番組コンクールで高い評価を受けた作品を放送するNHK「ザ・ベストテレビ2024」（ドキュメンタリー限定）、「ザ・ベストラジオ2024」に協力しました。

「ザ・ベストテレビ2024」はNHK・BS1で2024年12月3日（火）から7日（土）に放送されました。第61回のギャラクシー賞は大賞はドラマ作品だったため、第5部12月7日（土）深夜1:11～2:26のなかで、ダイジェストで優秀賞、選奨受賞のドキュメンタリー作品が紹介されました。

「ザ・ベストラジオ2024」はNHK FMで12月29日（日）午前8:50～11:50に放送され、第61回ギャラクシー賞ラジオ部門からは、大賞の静岡放送「方言アクセントエンターテインメント～なまってるのは、東京の方かしんねーんだかんな～」、同優秀賞のRKB毎日放送「空想労働シリーズ サラリーマン」が放送されました。（ネットラジオ「らじる★らじる」「radiko」の同時配信、「らじる★らじる」聴き逃し配信1週間を含む）。

7. 第22回日韓中テレビ制作者フォーラム

2024年中に開催予定だった中国大会は、2025年2月の開催となりました。（主催：全日本テレビ番組製作社連盟／ATP、放送批評懇談会、韓国PD連合会、中国電視芸術家協会）

8. 公式ホームページおよびGメンバーサイト（会員サイト）を運営しました。

9. 広報委員会と連携して、フェイスブック、X（旧ツイッター）、インスタグラムでの情報発信を担当しました。

10. 「GALAC」「放送批評懇談会ギャラクシー賞60年史」の販売を行う公式オンラインショップを運営しました。



2024年度出版編集事業報告

1. 2024年度は下記のメンバーで運営しました。

委員長	茅原良平
副委員長	岩根彰子 長井展光
委員	阿部日向子 奥 律哉 兼井孝之
	北林靖彦 服部洋之 三原 治 吉川邦夫
シニアエディター	鈴木健司
編集スタッフ	中島好登 福島美子 山本夏生 齋藤茜里

2. 毎月6日に「GALAC」プリント版（4000部程度）と電子版で発行しました。

- 1) 特集テーマは以下のとおりです。

2024年 7月号	決定！第61回ギャラクシー賞
2024年 8月号	第61回ギャラクシー賞・贈賞式
2024年 9月号	放送のコンプライアンス考 ／第61回ギャラクシー賞 大賞受賞者の声
2024年10月号	放送アーカイブの現在地
2024年11月号	地球沸騰化をどう報じるか
2024年12月号	朝ドラ「虎に翼」が開いた扉 ／パリ 2024の光と影
2025年 1月号	第62回上期ギャラクシー賞
2025年 2月号	阪神30年、能登1年 災害報道アップデート
2025年 3月号	選挙報道クライシス
2025年 4月号	ラジオ100年のレガシー
2025年 5月号	ラジオ100年 その先へ
2025年 6月号	クロスボーダーする時代劇（仮）

- 2) 2024年度は任期交代によるメンバー入替で、新体制での一年目となりました。「GALAC」自体のコンセプトについては大きく変えることなく、「放送（コンテンツ）を多角的に見つめ、健全な批評精神を発揮する」という基本的な編集方針のもと、国内外の社会状況を注視し、放送界のトピックス、諸問題をメインに



検証・考察していくという方針を大切にしました。これに基づき、毎月、編集委員会をオンラインで開き、特集の思案、単発記事や連載企画の検討を行い、日常的にも委員会内での情報交換を積極的に行いました。

3. KADOKAWA（プリント版）、ブックウォーカー（電子版）にて販売を行いました。
また、放懇オンラインショップ、富士山マガジンサービスでの直販に努めました。
4. インターネット対応について
 - 1) 2015 年に契約を交わしたニュースサイト「東洋経済オンライン」での配信について、先方の申し出を受諾し、2025 年 2 月号をもって当サイトでの配信を終了しました。
「InterBEE マガジン」への記事の提供を行いました。
 - 2) Gメンバーサイトに電子版を提供しました。



NPO放送批評懇談会

第21回通常総会 2025

2024年度選奨表彰事業報告

1. 2024年度は下記の委員の構成で運営しました。

選奨事業委員長 出田幸彦

＜テレビ部門委員会＞

委員長 桒山珠美

副委員長 岡室美奈子 加藤久仁

委員 影山貴彦 篠原朋子 戸部田 誠 並木浩一

西畠泰三 樋口喜昭 福島俊彦 松田健次 三谷実可

柳川素子

＜ラジオ部門委員会＞

委員長 桜井聖子

副委員長 仲宇佐ゆり 山田眞嗣

委員 石井育子 井上佳央里 栗原紗代 下田まり子

真銅健嗣 高瀬 毅 西川博泰 橋本やすしげ

＜CM部門委員会＞

委員長 家田利一

副委員長 風間恵美子

委員 伊藤健志 岡野敏之 片桐 理 齋藤千明 佐藤義浩

生野 徹 中橋 敦 野上信子 平岩モトイ 藤掛真里

柳 志政

＜報道活動部門委員会＞

委員長 古川柳子

副委員長 市村 元

委員 浅井賢二 飯野芳一 石田研一 一瀬悦子 齊藤潤一

境真理子 塚本 茂 長谷川達哉

選奨事業委員会担当事務局 福島美子 齋藤茜里 山本夏生

2. 第61回および第62回ギャラクシー賞各部門の選考のため、以下の作業を行いました。

＜テレビ部門委員会＞

- ・2024年4月から2025年3月まで、毎月月評会を開き月間賞4本を選びました。



選考結果を「GALAC」誌上に月間賞選評および番組短評一覧として発表しました。また毎月2本、テレビ番組全般についての評論を「私評」として掲載しました。月間賞は毎月20日を情報解禁日とし、選考結果をプレスリリースしました。

- ・2024年3月9日～28日、4月5日～16日に、第61回下期自薦作品197本を視聴。4月21日、月間賞（24本）と自薦作品の中から下期入賞作品7本を選出し、上期選出の7本と合わせた14本（大賞1本、優秀賞3本、選奨10本）を入賞作品として決定しました。同時に特別賞、個人賞も選出しました。
- ・2024年9月10日～30日、10月9日～22日に、第62回上期自薦作品175本を視聴。11月2日、月間賞（24本）と自薦作品の中から上期入賞作品7本を選出しました。

<ラジオ部門委員会>

- ・2024年4月から2025年3月まで、毎月合評会を開催してラジオについての合評を行いました。
- ・2024年4月、第61回下期53本の自薦作品を聴取し、4月15日、16日に、生ワイド、音楽&エンターテインメント、ドラマ、報道・ドキュメンタリー、各カテゴリーの下期入賞候補作品を選出しました。
- ・4月19日、上期下期を合わせた候補作品16本の中から入賞作品8本（大賞1本、優秀賞3本、選奨4本）を選出しました。同時にDJパーソナリティ賞も選出しました。
- ・2024年10月、第62回上期61本の自薦作品を聴取し、10月25日、11月1日に生ワイド、音楽&エンターテインメント、ドラマ、報道・ドキュメンタリー、各カテゴリーの入賞候補作品8本を選出しました。

<CM部門委員会>

- ・2024年4月から2025年3月まで、毎月定例会を開催してCMについての合評を行いました。
- ・2024年4月16日、第61回下期67本（テレビ）、41本（ラジオ）、49本（ウェブ）の自薦作品を視聴し、13本の下期入賞候補作品を選出しました。続いて最終選考会を行い、上期下期合わせた中から



入賞作品 13 本（大賞 1 本、優秀賞 3 本、選奨 9 本）を選出しました。

- ・2024 年 10 月 23 日、第 62 回上期 70 本（テレビ）、34 本（ラジオ）、45 本（ウェブ）の自薦作品を視聴し、13 本の入賞候補作品を選出しました。

<報道活動部門委員会>

- ・2024 年 7 月 30 日、2025 年 2 月 18 日に委員会をオンラインで開催し、各委員からテレビ、ラジオ、ケーブルテレビなどの領域における着目すべき報道活動について報告しました。情報交換を行うとともに、報道活動全般についての意見交換を行いました。
- ・「GALAC」連載ページを委員が分担し、全国各地における報道活動の紹介をするとともに、各報道活動への評価や期待、そこから展開されるテーマに関する課題などを論考、執筆しました。
- ・2024 年 4 月 20 日、第 61 回下期 19 本の自薦作品を視聴し、上期下期合わせた中から入賞作品 6 本（大賞 1 本、優秀賞 2 本、選奨 3 本）を選出しました。
- ・2024 年 10 月 27 日、第 62 回上期 14 本の自薦作品を視聴し、3 本の入賞候補作品を選出しました。



2024年度企画開催事業報告

1. 2024年度は、下記の委員で運営しました。

委員長 長井展光

副委員長 渡邊 悟

委員 北尾昌大 新川周平 樋口喜昭 平岩 潤

2. 2024年度は、「選挙報道をリポートする!! ネットにできない報道へのバージョンアップ」というテーマで、2024年12月3日にオンラインセミナーを開催しました。

(1) コロナ禍以降、オンライン形式が定着したことや地方からの参加のしやすさを考慮し、ビデオ会議システム（Zoom ウェビナー）の導入、感染対策を徹底した上での少人数によるスタジオ生配信の運営など、2020年度から5回連続でオンラインセミナーを開催したことにより、その方法論やノウハウを発展させることができました。

(2) 受講料はオンラインセミナーの適正な価格帯を慎重に検討し、正会員 2000 円、維持会員（および維持会員の加盟社）3000 円、一般 5000 円とし、学生 1000 円も加えました。

(3) 2024 年は東京都知事選挙、衆議院選挙が続き、タイムリーなテーマ設定を図りました。さらに開催直前には兵庫県知事選挙が行われ、ネットでの情報流布・言論の潮流、既存メディアの報道姿勢が注目され関心が高まりました。「テレビの選挙報道を面白くする処方箋～ネット時代の選挙報道の改善点」をサブテーマにしたところ、今日の選挙報道の在り様について考える場となり、民放キー局、地方局などの関係者を中心に好評を得ました。定員 200 名のところ 117 名の申し込みがあり、オンライン形式で支出を抑制することができて、最終的な収支も黒字化を達成することができました。

3. セミナーの概要は以下の通りです。

放送批評懇談会セミナー2024

タイトル：「選挙報道をリポートする!!」

ネットにできない報道へのバージョンアップ」



日 時：2024 年 12 月 3 日（火）15：00～17：30

形 式：オンライン（Zoom ウェビナー）

定 員：200 名

受 講 料：一般 5000 円、維持会員 3000 円、正会員 2000 円、学
生 1000 円（税込）

講 演 者：大島 新（ドキュメンタリー監督）

米重克洋（J X 通信社代表取締役）

山田健太（専修大学教授）

<リモート出演>

安野貴博（AI エンジニア、起業家、SF 作家）

<モデレーター>

平岩 潤（放送批評懇談会 企画事業委員）



2024年度広報事業報告

1. 2024年度は、下記の委員で運営しました。

委員長	滝野俊一
副委員長	国枝智樹
委員	汲田亜紀子 芝崎柊祐 西川博泰 西森路代 村田玲子 柳川素子
事務局	中島好登 齋藤茜里
2. 公式ホームページやSNS（X／旧ツイッター、インスタグラム、フェイスブック）や、YouTube 公式チャンネルを使った広報活動に力を入れました。X（旧ツイッター）が9,613人、インスタグラムが1,823人、フェイスブックが1,023人とフォロワーも順調に増えました。また、YouTube 公式チャンネルのチャンネル登録者数も5,320人を数えています（いずれも2月25日現在）。
3. 公式ホームページの充実に努めました。「ドラマ座談会」は“まとめ編”を含めて1クール2回実施し、アクセス数アップにもつながりました。
4. 第61回ギャラクシー賞贈賞式のYouTube ライブ配信を実施しました。視聴回数は7,662回を記録し、その後、アーカイブ配信も実施しました。また、贈賞式で収録した受賞者のインタビュー動画を、後日、YouTube 公式チャンネルに配信しました。
5. 第61回ギャラクシー賞贈賞式で取材対応を行いました。
6. 準会員制度「放送批評懇談会 オンライン会員 Gメンバー」（以下、Gメンバー）の運営を行い、「マイベストTV賞」の投票を毎月実施しました。Gメンバーの会員数は1,549名（2月25日現在）でした。
7. 5月15日にGメンバーの更新料金の変更を実施しました。それ



まで 1,000 ポイント獲得で年会費無料のところを、1,000 ポイント獲得で年会費半額（500 円）に変更しました。

8. 「第 18 回マイベストTV賞グランプリ」を決定しました。第 61 回ギャラクシー賞贈賞式では、Gメンバー代表がプレゼンターを務めました。

第三号議案

放送批評懇談会

2024 年度決算報告

収 支 計 算 書

2024年1月1日～2024年12月31日まで（単位：円）

科目	予算額	決算額	差異
I. 収入の部			
1. 会費等収入			
会費収入	3,000,000	2,945,000	55,000
維持会費収入	42,500,000	42,280,000	220,000
GfNパ-会費収入	300,000	811,592	△ 511,592
2. 事業収入			
選奨表彰事業収入	36,000,000	36,207,140	△ 207,140
企画開催事業収入	650,000	355,000	295,000
周年事業収入		28,000	△ 28,000
3. その他の収入			
出版編集事業収入	6,800,000	4,182,041	2,617,959
広告料収入	1,550,000	1,598,000	△ 48,000
4. 雑収入			
受取利息	0	1,217	△ 1,217
5. 退職金関連 保険満期返戻金			
当期収入合計	90,800,000	88,407,990	2,392,010
II. 支出の部			
1. 事業費			
選奨費	7,500,000	7,998,943	△ 498,943
式典費	13,500,000	14,264,378	△ 764,378
企画開催費	450,000	317,352	132,648
原稿料	5,400,000	5,211,297	188,703
編集費	4,100,000	3,903,972	196,028
雑誌印刷費	18,500,000	18,480,440	19,560
発送費	2,500,000	2,122,003	377,997
2. 管理費			
給料手当	24,000,000	23,889,309	110,691
人件費	400,000	347,808	52,192
法定福利費	3,500,000	4,085,136	△ 585,136
福利厚生費	100,000	249,770	△ 149,770
旅費交通費	500,000	532,560	△ 32,560
通信費	600,000	643,160	△ 43,160
資料費	50,000	44,000	6,000
会議費	150,000	133,870	16,130
水道光熱費	280,000	272,281	7,719
事務用品費	70,000	58,703	11,297
消耗品費	200,000	179,638	20,362
備品費	500,000	405,243	94,757
諸印刷費	460,100	561,990	△ 101,890
広報費	1,000,000	793,131	206,869
支払手数料	250,000	268,722	△ 18,722
賃借料	4,000,000	4,082,308	△ 82,308
保険料	390,000	358,600	31,400
交際費	100,000	199,869	△ 99,869
雑費	1,000,000	1,311,743	△ 311,743
諸会費	150,000	151,507	△ 1,507
租税公課	70,000	71,000	△ 1,000
消費税	79,900	79,900	
寄付金		30,000	
退職給付引当金繰入	1,000,000	1,000,000	0
当期支出合計	90,800,000	92,048,633	△ 1,248,633
当期収支差額	0	△ 3,640,643	3,640,643

貸 借 対 照 表
2024年12月31日現在(単位:円)

科目	金 額		
I. 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	62,112,813		
未収入金	2,542,500		
所有物	286,625		
流動資産合計		64,941,938	
2. 固定資産			
賃借権利金等	66,551		
差入保証金	4,099,500		
特定資産			
志賀基金	57,009,799		
退職給付引当金	11,404,926		
固定資産合計		72,580,776	
資産合計			137,522,714
II. 負債の部			
未払金	4,713,266		
前受金	7,622,499		
預り金	1,209,960		
仮受金	22,161,410		
退職給付引当金	11,404,926		
負債合計			47,112,061
III. 正味財産の部			
志賀基金	100,000,000		
その他の正味財産	△ 9,589,347		
正味財産合計			90,410,653
(うち基本金)			0
(うち当期正味財産増加)			△ 3,640,643
負債及び正味財産合計			137,522,714

正味財産増減計算書

2024年1月1日～2024年12月31日まで (単位:円)

科目	金 額		
I. 増加の部			
2. 資産増加額			
特定資産増加額	3,609,027		
2. 負債減少額			
未払金減少額	3,083,388		
預り金減少額	76,602		
増加額合計		6,769,017	
II. 減少の部			
1. 資産減少額			
現金預金減少額	6,269,937		
前払金減少額	372,621		
未収入金減少額	111,000		
賃借権利金減少額	136,102		
1. 負債増加額			
前受金増加額	2,520,000		
退職給付引当金増加額	1,000,000		
減少額合計		10,409,660	
当期正味財産増加額			△ 3,640,643
前期繰越正味財産額			94,051,296
期末正味財産額			90,410,653

第四号議案

放送批評懇談会

2025 年度事業計画



2025年度総務事業計画

1. 会員管理、議会運営、事務局業務を行い、委員会を運営して事業部門の活動を支援します。
2. 正会員の加入促進
正会員の加入促進に努め、より多彩な活動を支えます。
3. 維持会員の加入促進
維持会員の増員によって会の財政基盤を強めることを目指します。
4. 「GALAC」の編集・発行・発売
出版編集委員会と連携し、「GALAC」の編集実務にあたり、発行・発売などの業務を支えます。
5. 「GALAC」広告
出版編集委員会と連携し、「GALAC」広告の営業に努力するほか、スペースの有効活用について研究します。
6. ギャラクシー賞
選奨事業委員会と連携し、各部門の委員会運営、エントリー作品公募作業にあたり、ギャラクシー賞の選考活動を支えます。
第62回ギャラクシー賞贈賞式を2025年6月2日に開催します。
7. 志賀信夫賞、フロンティア賞
第16回志賀信夫賞の選考、表彰を行います。
フロンティア賞の選考、表彰を行います。
8. 放懇セミナーなどのイベント
企画事業委員会と連携し、セミナーなどの企画事業の事務、運営を担当します。



9. ホームページ、ギャラクシー賞データベースの維持管理
広報委員会と連携し、公式ホームページを維持管理し、充実を図ります。
ギャラクシー賞データベースの管理運営に当たります。
10. フェイスブック、X（旧ツイッター）、インスタグラム、YouTubeの運営管理
広報委員会と連携し、会の公式フェイスブック、X（旧ツイッター）、インスタグラムおよびYouTubeを管理、運営し、放送批評懇談会、「GALAC」、ギャラクシー賞の広報に努めます。
11. Gメンバー、Gメンバーサイト（会員サイト）の管理
広報委員会と連携し、「放送批評懇談会オンライン会員 Gメンバー」の管理に当たり、運営を支援します。Gメンバーサイト（会員サイト）の維持管理に当たります。
12. 「日韓中テレビ制作者フォーラム」第22回中国大会、第23回日本大会
2025年2月開催の「日韓中テレビ制作者フォーラム・中国大会」、2025年秋の開催を目指す「同・東京大会」に協力し、大会の成功に寄与します。
13. NPO法人としての強靱化
放送批評懇談会の在り方を検討し、組織としての強靱化を図るため、顧問弁護士の指導を仰ぎながら、会の運営課題の解決に当たります。
強靱化のワーキングチーム（川喜田尚専務理事、小林毅理事、中島好登事務局長）など必要に応じた体制を組み、活動を臨機応変に進めます。
14. 財務強化
会の財務強化、健全化を図るため、慎重かつ堅実な資金運用の在り方を検討し、これを進めます。必要に応じて、財務強化のワーキングチームを編成します。



15. 事務局環境整備

労働環境、組織運営管理体制を整備し、次世代につながる事務局体制を模索します。事務局体制の強化および労務課題解決のため、小林毅理事に労務関連のアドバイザーを委嘱します。



2025年度出版編集事業計画

1. 2025年度は下記のメンバーで運営します。

委員長	茅原良平
副委員長	岩根彰子 長井展光
委員	阿部日向子 奥 律哉 兼井孝之
	北林靖彦 服部洋之 三原 治 吉川邦夫
シニアエディター	鈴木健司
編集スタッフ	中島好登 福島美子 山本夏生 齋藤茜里

2. 毎月6日に「GALAC」を発行します。本年度の運営方針は以下のとおりです。

- 1) 2025年度は、日本の放送開始100年をはじめ、戦後80年、21世紀を迎えて四半世紀など、象徴的な節目が重なる年です。こうした節目であることに加え、SNSをはじめとするネットの暴走、気候変動の脅威、不安定な国際情勢、ジャーナリズムに対する不満、人権侵害など、社会全体が不穏な空気に包まれる現在、放送が社会に資するべきことは何か深く考えることが、これまで以上に重要となっています。

「GALAC」は変化する時代の状況を捉え、「放送にかかわる諸問題に対してさまざまなアプローチを行い、放送文化の向上に貢献する」という創刊以来継続してきた役割を地道に果たしながら、定期刊行メディアとしての雑誌づくりを行っていきます。さらに、数少なくなった「放送専門誌」「放送批評誌」としてその存在意義や独自性を示すとともに、放送批評懇談会の「機関誌」として、選奨各委員会で取り上げるテレビ・ラジオ番組、CM、報道活動をはじめ、ギャラクシー賞受賞作品の魅力について、批評を通じて多角的に紹介し、放送文化の向上に寄与することに努めます。

- 2) 基本編集方針は、特集・連載・選奨各委員会による番組批評の3本柱で構成し、読者ターゲットである「放送にかかわるあらゆるプロフェッショナル」「放送界をめざす学生」、そして「意識



の高い視聴者・聴取者」に面白い、役に立つと感じてもらえるような記事を掲載するよう努めます。放送メディアの存在意義が問われる現在、「GALAC」が大衆と放送メディアを結びつける役割を果たせるよう、時代の変化を捉えた視点、業界のトレンド、最新の技術動向などにも敏感に対応し、放送業界に貢献する情報を提供することを目指します。

- 3) NPO法人の発行する雑誌として、どの団体、組織にも付度しないジャーナリズム精神、自由闊達な批評精神を堅持し、あらゆるテーマにチャレンジする編集姿勢を貫きます。また、専門誌として放送にかかわるさまざまな事象を、一つの歴史として「記録」していく役割も同時に果たしていきます。
- 4) 特集ページは、時宜を捉えたテーマを選定するとともに、テレビ、ラジオ、CMのみならず、ネットメディアや衛星・ケーブルメディア、ローカル局や制作会社、そして、制度や産業の動向、社会情勢などさまざまな領域に目配せし、バランスよく編集することを目指します。
- 5) 放送批評懇談会正会員やGメンバーなどからの意見に耳を傾けながら、柔軟かつ時宜を得た誌面づくりに努めます。
- 6) 選奨事業委員会や企画事業委員会との連携を推進し、連動企画の実現など、放送批評懇談会の各種活動の活性化に寄与していきます。
- 7) 広報委員会との連携を意識し、さまざまなチャンネルを通じて「GALAC」に関する情報収集、読者からの反応収集を継続的かつ積極的に行います。そして「GALAC」の存在感をよりいっそう高めるとともに、Gメンバーの入会促進につなげることを目指します。
- 8) 「GALAC」広告の営業に努力するとともに、有効活用を進めます。

NPO放送批評懇談会



第 21 回通常総会 2025

9) 「GALAC」を配信する新たなサイトを探すことに努めます。



2025年度選奨表彰事業計画

1. 2025 年度は下記の委員構成で運営します。

選奨事業委員長 出田幸彦

＜テレビ部門委員会＞

委員長 桧山珠美

副委員長 岡室美奈子 加藤久仁

委員 影山貴彦 篠原朋子 戸部田 誠 並木浩一

西畠泰三 樋口喜昭 松田健次 三谷実可

柳川素子

※若干名を検討中

＜ラジオ部門委員会＞

委員長 桜井聖子

副委員長 仲宇佐ゆり 山田眞嗣

委員 石井育子 下田まり子 真銅健嗣 高瀬 毅

西川博泰 橋本やすしげ

※若干名を検討中

＜CM部門委員会＞

委員長 家田利一

副委員長 風間恵美子

委員 伊藤健志 岡野敏之 片桐 理 齋藤千明

佐藤義浩 生野 徹 中橋 敦 野上信子

平岩モトイ 柳 志岐 渡辺秀文

＜報道活動部門委員会＞

委員長 古川柳子

副委員長 市村 元

委員 浅井賢二 飯野芳一 石田研一 一瀬悦子

齊藤潤一 境真理子 塚本 茂 長谷川達哉

2. 第 62 回ギャラクシー賞（2024 年度）の選考と贈賞式を行います
（2024 年度委員会が担当）。

3. 第 63 回ギャラクシー賞（2025 年度）の選考を行います。



4. 2025年度の運営方針は以下のとおりです。

2025年は日本でラジオ放送が始まって100年となります。

放送を取り巻く環境が厳しくなる中、ラジオの接触率は年々低下し、テレビの視聴時間も減少傾向にあります。その一方で放送コンテンツのネットによる配信サービスが普及したことで、視聴者は時間や地域を超えてより自由に放送コンテンツにアクセスできるようになり、視聴スタイルも大きく変化しました。

加えて最近では、NetflixやAmazonなどの動画配信サービスに多くの話題作が登場するようになり、これまで以上に放送メディアならではの優れたコンテンツが求められています。

そうしたなかでギャラクシー賞への応募本数は着実に増加しています。直近の第62回上期をみると、テレビ、ラジオ、CM、報道活動の4部門でいずれも前年同期より応募本数が増えており、斬新な企画や意欲的な作品が数多く寄せられました。

今年度も選奨にあたっては、各部門委員会が真摯で活発な討議を重ね、厳正で慎重な審査と的確で質の高い選評に心がけます。また選奨委員による選評や講評、論考などを月刊誌「GALAXY」に掲載し、作品への評価や制作者へのメッセージなどを丁寧にわかりやすく発信していきます。

さらに「入賞作品を見る会・聴く会」などの開催については、制作者と視聴者を繋ぐ場やギャラクシー賞を周知する場としてひきつづき充実をはかります。

「放送以外の配信コンテンツ」については、2023年度からCM部門で「ウェブCM」を審査対象に加えました。幅広い領域で優れた作品を発掘するなど実績を重ねつつあります。他部門については2025年度中に具体的な方向性を示すことを目指し、ひきつづき検討を進めていきます。

1) テレビ部門委員会の運営

ギャラクシー賞創設から63年、メディア環境も大きく変化し、テレビ番組の視聴スタイルも多様化しました。リアルタイムでの視聴のみならず、動画配信サービスでの視聴、地域や系列、時間の壁を超え、誰もが見たい番組を自由に選択できる、そんな時代になりました。



私たちテレビ委員会は、活発な批評活動を通して、テレビの今を見つめ、寄り添い、制作者と視聴者を繋ぐ役割を担います。さらに、報道、ドキュメンタリー、ドラマ、バラエティなどのジャンルを問わず、キー局、ローカル局の隔たりなく、テレビ番組の向上と発展に貢献すべく、真摯で活発な選奨活動を目指します。

① 定例月評会の開催

毎月、月評会を開催。各委員がそれぞれの視点から評価した作品を推薦し、「月間賞」を4本選定します。また、月評会に向けて、テレビ委員間の掲示板を通して情報共有に務め、見逃し視聴などの機能を活用し、幅広い番組視聴を心がけ、議論することに務めていきます。さらに、個々の番組評価に留まらず、番組表現の在り方や、時代性など、テレビ放送全般の傾向についての考察を「GALAC」誌上、私評に反映させていきます。

② ギャラクシー賞の選定

年2回、エントリーされる応募作品から上期、下期それぞれ「入賞」「奨励賞」を選定。これに「月間賞」を加えて、年間の「大賞」「優秀賞」「選奨」「特別賞」「個人賞」を決定します。全国の地上波局、衛星放送局、ケーブルテレビ局の特性を尊重しつつ、新しい視点、時代を射抜く眼差し、作品性と映像表現などを丁寧に評価、制作者の志や情熱を受け止め、多様性や公平性を重視し、社会に発信する機会となるような選奨を心がけます。

③ 月刊誌「GALAC」での講評活動

月間賞やギャラクシー賞選考の過程・結果を選評・私評などを通して発信。制作者へのエール、気づきに繋がるような論評に務めます。また、制作者インタビューなどの機会を通して、制作者とのコミュニケーションを図ります。

2) ラジオ部門委員会の運営

音楽配信サービスやポッドキャスト、個人でコンテンツを配信する音声プラットフォームなど音声メディア市場は多様化し、スマートスピーカーなど試聴スタイルも変化しています。時代



の変化の波に乗りながらも、ラジオには災害時はもとより、人々と日々の生活を共にし、地域に密着した情報を発信し、興味や話題を共有して文化を維持、発展させる役割があります。2025年3月にラジオは日本での放送開始から100年を迎えました。AM放送の休止やFM転換の動きが注目され、番組と絡めた放送外収入（大規模イベント開催、グッズ販売、ラジオショッピング）で多角的に収益を確保し、安定的な運営を目指す局も増えています。こうしたラジオの現在地を検証しつつ、情報収集と委員会活動の拡充を図り、多様な作品を発掘し、制作者を応援します。

① 定例合評会の開催

毎月1回の定例合評会を開催します。音声メディアが多様化しても、評価のカギとなるのはコンテンツ＝「番組の力」です。日常的に番組と向き合う定例合評会は重要と考えています。これまでと同様に、全国のAM局、FM局、コミュニティFM局の全番組を対象に、幅広い番組試聴を心がけ、議論し評価します。さらに放送局由来のオリジナルポッドキャスト番組にも注目していきます。音声配信が手軽になり、多くのコンテンツが制作されるなか、クオリティが求められる時代に入ってきました。制作のノウハウを熟知しているラジオ制作者ならではの番組、放送を中心として、SNS、YouTubeなど他メディアとの連動を積極的に活用している点なども議論し、合評に反映します。合評会の内容は「GALAC」誌で公開します。

② ギャラクシー賞およびDJパーソナリティ賞の選考

昨年度は応募本数が104本と大幅に増え、聴き応えのある番組が集まりました。これまでと同様に、上期、下期の「生ワイド」「音楽&エンターテインメント」「ドラマ」「報道・ドキュメンタリー」への応募作品から、優れた作品を評価し、入賞作品を選定、年間の「大賞」「優秀賞」「選奨」「奨励賞」を決定します。制作者を応援し、次の作品の制作意欲に繋げてもらうための選奨を行います。DJパーソナリティ賞は、毎月の定例合評会でも候補者の情報を収集し、選考します。また、ラジオ業界の活性化に繋がるフロンティア賞の推薦にも力を入れます。



③ 「GALAC」誌での活動

優れた番組や出演者を発掘し、ラジオと音声コンテンツの魅力と話題を発信します。

「合評報告」はさらに充実させます。局の顔でもある生ワイドに注目する「生ワイド番組紹介」では、全国の放送局を12のブロックに分け、地域ならではの個性豊かな番組やDJパーソナリティの発掘へとつなげます。「ラジオデイズ」は、各委員の視点から、ラジオへの提言、問題提起、また「日本でのラジオ放送100年」、「ラジオ音声コンテンツ市場」など業界の動きや、気になる人物などを取り上げます。

④ 「ギャラクシー賞入賞作品」を聴く

受賞作品をより多くの人に聴いてもらうための方法を、受賞局と連携して模索していきます。これまで実施してきた「ギャラクシー賞入賞作品を聴いて、制作者と語り合う会」については、引き続き検討しつつ、DJパーソナリティ賞の受賞者にフォーカスした会の開催など、ギャラクシー賞のPRにつながるよう努めます。

3) CM部門委員会の運営

CMの状況はますます複雑になってきています。制作手法の多様化、ウェブCMの拡大など、さまざまな変化を見ることができます。私たちは、CMの社会的・文化的価値や効果を適正に評価しつつ、クリエイティブに挑戦する作品を発見し、批評することにより注力していきます。CM委員会では以下の活動を通じ委員会運営を強化いたします。

① 月例定例会を毎月1回開催します

委員各々が3本ずつリストアップしたテレビCM、ラジオCM、ウェブCMを、多角的な視点から検討し、活発に批評活動を行います。リアルな会合を基本にしながら、参加できない委員にはハイブリッドで対応していきます。



② ギャラクシー賞CM部門の選考を行います

選考会では、活発な意見交換を行いつつ選考します。クリエイティブ力のある作品、企画力のある作品、感銘をあたえる作品、時代をリードする作品を発掘・評価していきます。すでに第60回からは、ウェブCMを応募対象に含めました。これにより、幅広い領域からの作品の発掘が可能になりました。

③ 「GALAC」誌への掲載

毎月の定例会でピックアップした作品を「GALAC」誌面に反映できるようにしていきます。推奨される約30作品中、その時々々のテーマを設け、CMトピックスとして3作品、モニタールームに4作品、アラカルトに10作品を掲載し、一層の充実を図っていきます。トピックスでは、担当委員が、制作の映像表現、音声表現、企画演出、メディアやターゲット、情報としての価値やニュース性、新しいCMスタイルなど、さまざまなテーマや切り口から、推奨作品を批評します。

④ 現状での選考は「ノンセクション審査」です

テレビCM、ラジオCM、ウェブCMが対象ですが、13本の選奨のバランスも大切だと考えています。

⑤ 広報活動により、応募の数を増やしたいと考えています。

そのための活動は何かを考え、積極的に動きたいと思っています。今後は「ギャラクシー賞入賞作品を見る・聴く会」の大学などでの実施を検討しています。

4) 報道活動部門委員会の運営

報道活動部門委員会は個々の番組単体の評価ではなく、一連の報道活動全体に着目し放送ジャーナリズムの活性化に寄与することを目的としています。番組内の特集やシリーズ企画、長期間におよぶ調査報道、局全体でのキャンペーン企画、他メディアと連動した挑戦的な試み、新しい技術を活用した報道手法の開拓など、多様な報道活動を評価の対象とし、制作現場の意欲を後押しできるような運営を目指します。



① 報道活動に関する情報収集・共有・発信

各委員がそれぞれのアンテナで、放送局（地上波・衛星波・ラジオ・ケーブルテレビ）の報道活動に注目し、年数回の情報交換会において収集した情報を共有します（日常的に委員会のネット掲示板などを活用。）また、「GALAC」のコラム「報道活動部門トピックス」を通して、委員の輪番で注目される報道活動を紹介し、多方面からのギャラクシー賞応募促進にも繋げていきます。

② ギャラクシー賞の選考

年に2回（上期・下期）ギャラクシー賞への応募を募り、委員会での選考審査を経て大賞1本、優秀賞2本、選奨3本を選びます。報道活動の内容自体もさることながら、その背景やプロセスなどにも目を配り、公平かつ厳正な選奨に努めます。選考の結果は贈賞式にて発表し、その過程や選評について「GALAC」誌上で掲載します。

③ 「報道活動」について考える場づくり

メディア環境の変化が社会の出来事に大きな影響をもたらし、「報道活動」自体も多様になる一方で、テレビ報道の在り方が問い直される場面も多くなっています。選奨や講評、現場制作のインタビューなどの運営を通し現場の挑戦を応援するとともに、「報道活動」の在り方を共に考える契機を作っていきたいと考えます。



2025年度企画開催事業計画

1. 2025年度は下記の委員で運営します。

委員長 長井展光

副委員長 渡邊 悟

委員 北尾昌大 新川周平 樋口喜昭 平岩 潤

※若干名を検討中

2. 放送の今日的課題をめぐるシンポジウム、セミナー・研究会などを企画・立案・実施します。

3. 本年度の運営方針は以下の通りです。

- (1) 幅広く、タイムリーにテーマを設定します

放送を取り巻く課題や環境は大きく変化し続けています。「テレビ離れ」が言われる中、厳しさを増す経営環境、放送行政の変化、「選挙を巡る既存報道機関とSNSのあり様」や「フジテレビ問題」で問われた報道姿勢、放送局の意識の持ち様、地域メディアとしての放送のあり様……。放送ジャーナリズム、放送文化、経営問題などを幅広く視野にいれ、放送メディアが直面するさまざまな課題についてタイムリーに議論し、発信するように努めます。

- (2) 対面でより深く、オンラインの利便性も

開催方法等については、コロナ禍の間、ポストコロナ期にはオンライン形式のセミナーを開催してきました。2023年度以降は日々の生活、ビジネスは旧に復した感がありますが、他方、定着したオンラインによるセミナーは各地在住の会員・参加者に新たな参加の機会を生み出しました。中規模のセミナーを年間1～2回開催する方向を考え、対面開催、またオンラインの併用により充実した内容、参加しやすい開催態様を追求していきます。

- (3) 他の委員会との連携を一層強化します

選奨事業委員会（テレビ、ラジオ、CM、報道活動の各部門）や

NPO放送批評懇談会



第 21 回通常総会 2025

出版編集委員会（「GALAC」）と積極的に連携し、相乗効果で
発信力の強化を目指します。



NPO放送批評懇談会

第21回通常総会 2025

2025年度広報委員会事業計画

1. 2025 度は下記の委員で運営します。

委員長 滝野俊一

副委員長 国枝智樹

委員 汲田亜紀子 芝崎柊祐 西川博泰 西森路代

村田玲子 柳川素子

事務局 中島好登 齋藤茜里

2. 公式ホームページやSNS（X／旧ツイッター、インスタグラム、フェイスブック）や、YouTube 公式チャンネルを使った広報活動に、さらに力を入れます。
3. 「ドラマ座談会」や「GALAC」記事、インタビュー動画といったオリジナルコンテンツの強化など、公式ホームページのコンテンツのさらなる充実を図ります。
4. YouTube ライブ配信を、第 62 回ギャラクシー賞贈賞式でも実施します。贈賞式当日の受賞者インタビュー動画もさらなる充実を目指します。
5. 第 62 回ギャラクシー賞贈賞式でも取材対応を担当します。
6. 準会員制度「放送批評懇談会 オンライン会員 Gメンバー」（以下、Gメンバー）の運営を行います。
7. Gメンバーと正会員によるマイベストTV賞の月間ノミネート番組の投票を実施します。そして、「第 19 回マイベストTV賞グランプリ」を決定し、第 62 回ギャラクシー賞贈賞式で表彰します。

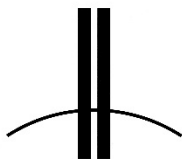
第五号議案

放送批評懇談会

2025 年度収支予算

2025年度予算
2025年1月1日～12月31日まで（単位：円）

科目	2024予算	2024決算	2025予算額	備考
I. 収入の部				
1. 会費等収入				
会費収入	3,000,000	2,945,000	3,000,000	正会員会費
維持会費収入	42,500,000	42,280,000	42,800,000	維持会員会費
Gメンバー会費収入	300,000	811,592	800,000	Gメンバー 会費
2. 事業収入				
選奨表彰事業収入	36,000,000	36,207,140	36,000,000	参加料, レプリカ販売, 会費
企画開催事業収入	650,000	355,000	450,000	セミナー参加料
周年事業収入		28,000		
3. その他の収入				
出版編集事業収入	6,800,000	4,182,041	5,500,000	GALAC販売
広告料収入	1,550,000	1,598,000	1,600,000	GALAC広告
4. 雑収入				
受取利息	0	1,217		
当期収入合計	90,800,000	88,407,990	90,150,000	前年比101.86%
II. 支出の部				
1. 事業費				
選奨費	7,500,000	7,998,943	7,500,000	委員会, レプリカ, システム維持管理
式典費	13,500,000	14,264,378	14,200,000	ギャラクシー賞贈賞式開催費
企画開催費	450,000	317,352	320,000	委員会運営, セミナー経費
原稿料	5,400,000	5,211,297	5,200,000	GALAC原稿料
編集費	4,100,000	3,903,972	4,000,000	委員会運営, GALAC編集費
雑誌印刷費	18,500,000	18,480,440	18,500,000	GALAC印刷費
発送費	2,500,000	2,122,003	2,200,000	GALAC発送費
2. 管理費				
給料手当	24,000,000	23,889,309	23,100,000	職員給与
人件費	400,000	347,808	100,000	臨時・契約職員
法定福利費	3,500,000	4,085,136	3,500,000	社会保険など
福利厚生費	100,000	249,770	200,000	残業飲食, 職員福利厚生
旅費交通費	500,000	532,560	530,000	通勤費・交通費, 役員交通費
通信費	600,000	643,160	600,000	郵便, 宅配便, 電話, ネット
資料費	50,000	44,000	40,000	新聞, 雑誌, 書籍
会議費	150,000	133,870	140,000	総会, 理事会などの会議費用
水道光熱費	280,000	272,281	280,000	水道代, 電気代
事務用品費	70,000	58,703	60,000	事務用品, PCソフト
消耗品費	200,000	179,638	180,000	コピー機使用料, 日用品
備品費	500,000	405,243	400,000	映像音響機器, PC関連機器
諸印刷費	460,100	561,990	460,000	封筒, 名刺など
広報費	1,000,000	793,131	1,000,000	HP維持, Gメンバー管理, 日韓中
支払手数料	250,000	268,722	270,000	振込手数料, 事務所更新手数料
賃借料	4,000,000	4,082,308	4,100,000	事務所賃借, コピー機レンタル
保険料	390,000	358,600	350,000	保険（退職金補填）, 火災保険
交際費	100,000	199,869	130,000	冠婚葬祭
雑費	1,000,000	1,311,743	1,300,000	税理士, 弁護士, NHK, WOWOW, JCOM
諸会費	150,000	151,507	150,000	友好団体会費
租税公課	70,000	71,000	71,000	法人都民税, 収入印紙
消費税	79,900	79,900	271,500	2023, 2024年度を対象に課税
寄付金		30,000		
退職給付引当金繰入	1,000,000	1,000,000	1,000,000	毎年100万円の積み立て
当期支出合計	90,800,000	92,048,633	90,152,500	前年比97.94%
当期収支差額	0	△ 3,640,643	△ 2,500	



NPO／特定非営利活動法人

放送批評懇談会

〒160-0022 東京都新宿区新宿 5-10-14 中村ビル 2F

Tel. 03-5379-5521 Fax. 03-5379-5510

kondankai@houkon.jp <https://www.houkon.jp/>